



野村 万作



野村 萬斎



野村 裕基

# 野村万作 狂言の会

素囃子 狂言三代

六五〇年以上の歴史を誇る、  
日本古来の伝統芸能。  
芸を極めた人間国宝・野村万作と、多彩な才能をもつ野村萬斎が、  
室町時代から続く日本最古の喜劇「狂言」の世界へと誘います。  
今回はコラーレ30周年を記念し、素囃子で華やかに幕を開けます。  
笑いと機知に富んだ、見ごたえある演目をお楽しみください。

素囃子 神舞

狂言 髭櫓

狂言 木六駄

主人に命じられ、お歳暮として炭六駄・木六駄 樽酒を伯父へ届ける太郎冠者。  
雪の山道で立ち寄った茶屋で、届け物の酒を飲み干し、酔って木六駄まで渡して  
しまい、残った炭六駄だけを持って伯父のもとへ向かうのだが……。  
大髭が自慢の男が、宮中の大嘗会で犀の鉾を持つ役に選ばれ上機嫌だが、妻は装束の支度を嫌がり、さらに髭を剃れと言っ。怒った男が妻を追い出すと、妻は女たちを率いて武装し、男に突進。男も櫓を首から掛けて応戦するのだが……。



2025.  
12/12 金

開場 18:30 開演 19:00

黒部市国際文化センター

コラーレ〈カーターホール〉

全席指定

一般6,000円 高校生以下1,000円※

障がい者手帳をお持ちの方5,000円※

※コラーレでのみ販売

チケット一般発売日

9月20日(土)9:00~

■プレイガイド：コラーレ、黒部メルシー、チケットぴあ (Pコード 536-098)、アツナビ

- 未就学児の入場はご遠慮願います。
- 車椅子の方、補助犬をお連れの方、体の不自由な方は、座席の相談を承りますので、コラーレまでお問い合わせください。
- この公演は黒部市の助成により低料金でお楽しみいただけます。

主催 / 公益財団法人黒部市国際文化センター  
共催 / チューリップテレビ  
後援 / 黒部市、黒部市教育委員会、北日本新聞社



日本最古の喜劇“狂言”をご堪能ください。

# 野村万作

## 狂言の会

万作、萬斎、裕基の  
狂言三代



### 野村万作

狂言師



一九三一年生。重要無形文化財各個指定保持者（人間国宝）、文化功労者、日本芸術院会員。文化勲章受章。祖父・故初世野村萬斎及び父・故六世野村万蔵に師事。早稲田大学文学部卒業。「万作の会」主宰。軽妙洒脱かつ緻密な表現のなかに深い情感を湛える、品格ある芸は、狂言の一つの頂点を感じさせる。国内外で狂言普及に貢献。ハワイ大・ワシントン大では客員教授を務める。狂言の技術の粋が尽くされる秘曲『釣狐』に長年取り組み、その演技で芸術祭大賞を受賞したほか、紀伊國屋演劇賞、日本芸術院賞、松尾芸能賞、紫綬褒章、坪内逍遙大賞、朝日賞、二〇一五年三月NHK放送文化賞等多数の受賞歴を持つ。「月に憑かれたピエロ」「子午線の祀り」「秋江」「法螺待」「敦山月記・名人伝」等、狂言師として新たな試みにもしばしば取り組み、現在に至る狂言隆盛の礎を築く。

一九六六年生。祖父・故六世野村万蔵及び父・野村万作に師事。重要無形文化財総合指定保持者。東京藝術大学音楽学部卒業。「狂言」をこころ乃座「主宰」。国内外で多数の狂言・能公演に参加、普及に貢献する一方、現代劇や映画・テレビドラマの主演、舞台「敦山月記・名人伝」「子午線の祀り」能狂言「鬼滅の刃」「ハムレット」など古典の技法を駆使した作品の演出で幅広く活躍。現在の日本の文化芸術を牽引するトップランナーのひとり。芸術祭新人賞・優秀賞、芸術選奨文部科学大臣新人賞、朝日舞台芸術賞、紀伊國屋演劇賞、毎日芸術賞千田是也賞、読売演劇大賞最優秀作品賞、観世寿夫記念法政大学能楽賞、松尾芸能賞大賞、坪内逍遙大賞等を受賞。石川県立音楽堂アーティストイテック・クリイイタイプ・ディレクター。東京藝術大学・日本大学芸術学部客員教授。（公社）全国公立文化施設協会会長。

### 野村萬斎

狂言師

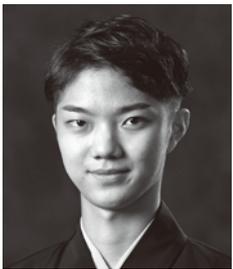


一九六六年生。祖父・故六世野村万蔵及び父・野村万作に師事。重要無形文化財総合指定保持者。東京藝術大学音楽学部卒業。「狂言」をこころ乃座「主宰」。国内外で多数の狂言・能公演に参加、普及に貢献する一方、現代劇や映画・テレビドラマの主演、舞台「敦山月記・名人伝」「子午線の祀り」能狂言「鬼滅の刃」「ハムレット」など古典の技法を駆使した作品の演出で幅広く活躍。現在の日本の文化芸術を牽引するトップランナーのひとり。芸術祭新人賞・優秀賞、芸術選奨文部科学大臣新人賞、朝日舞台芸術賞、紀伊國屋演劇賞、毎日芸術賞千田是也賞、読売演劇大賞最優秀作品賞、観世寿夫記念法政大学能楽賞、松尾芸能賞大賞、坪内逍遙大賞等を受賞。石川県立音楽堂アーティストイテック・クリイイタイプ・ディレクター。東京藝術大学・日本大学芸術学部客員教授。（公社）全国公立文化施設協会会長。

一九九九年生。野村萬斎の長男。祖父・野村万作及び父に師事。慶応義塾大学法学部卒業。能楽協会会員。三歳の時に「朝猿」で初舞台後、子方として国内外で多数の舞台に出演、修業を続け、「三番目」「奈須与市語」「釣狐」を抜く。世田谷パブリックシアター「ハムレット」、能狂言「鬼滅の刃」で重要な役を演じ、活動の場を広げている。朝日カルチャーセンターや全国各地の狂言ワークショップで講師を勤め、狂言の普及にも力を注いでいる。

### 野村裕基

狂言師



一九九九年生。野村萬斎の長男。祖父・野村万作及び父に師事。慶応義塾大学法学部卒業。能楽協会会員。三歳の時に「朝猿」で初舞台後、子方として国内外で多数の舞台に出演、修業を続け、「三番目」「奈須与市語」「釣狐」を抜く。世田谷パブリックシアター「ハムレット」、能狂言「鬼滅の刃」で重要な役を演じ、活動の場を広げている。朝日カルチャーセンターや全国各地の狂言ワークショップで講師を勤め、狂言の普及にも力を注いでいる。

一九九九年生。野村萬斎の長男。祖父・野村万作及び父に師事。慶応義塾大学法学部卒業。能楽協会会員。三歳の時に「朝猿」で初舞台後、子方として国内外で多数の舞台に出演、修業を続け、「三番目」「奈須与市語」「釣狐」を抜く。世田谷パブリックシアター「ハムレット」、能狂言「鬼滅の刃」で重要な役を演じ、活動の場を広げている。朝日カルチャーセンターや全国各地の狂言ワークショップで講師を勤め、狂言の普及にも力を注いでいる。

## 番組

解説 中村 修一

素囃子

神舞

- 大鼓 飯嶋六之丞
- 大鼓 麦谷 暁夫
- 小鼓 田邊 恭資
- 笛 江野 泉

狂言

木六駄

主人は、山ひとつ向うの都に住む伯父へのお歳暮として、炭を六駄と木を六駄、それに上等の樽酒を届けるよう太郎冠者に命ずる。雪の降る山中、荷を積んだ十二頭の牛を追い、ようやく峠の茶屋にたどり着いた太郎冠者は酒を所望するが、あいにく茶屋が切らしていたので、届けるはずの樽酒に手をつけ、茶屋と酌み交わすうちに全部飲み干してしまう。更に酔った勢いで木六駄まで茶屋にやってしまい、太郎冠者は残りの炭六駄をのせた牛を引いて伯父のもとへ行くのだが……。

降りしきる雪の中、蓑笠をつけ、一本の追竹だけで十二頭の牛を追う太郎冠者の演技が見どころです。また、酒宴の際に酔態で舞う「鶉舞」など、狂言として重厚な構成の中に庶民の生活感情が豊かに描かれた秀作です。

太郎冠者 野村 萬斎

主 飯田 豪  
茶屋 野村太一郎  
伯父 石田 幸雄  
後見 月崎 晴夫

狂言  
髭  
櫓

大髭が自慢の男が、宮中の大嘗会の犀の鉾を持つ役に選ばれ、大得意でいると、妻は装束の用意をするのが面倒だと言って機嫌が悪くなる。しかも、自慢の大髭も剃り落としてしまえというので、怒った男は妻を打ち据えて追い出す。目に物を見せると捨てぜりふを吐いて去る妻を背にせいでいっていると、それぞれに武装をした近所の女房を引き連れて妻が再登場し、囃子に合わせて男に突進する。男も櫓を首から掛けて応戦するが、多勢に無勢で取り囲まれ、ついに妻が秘密兵器を取り出して……。

大髭に小さな櫓、槍や長刀を持った女達、能がかりの斬り結びなど、見どころたっぷり作品です。

夫 野村 万作

妻 野村 裕基  
立衆 深田 博治  
中村 修一  
内藤 連  
飯田 豪  
岡 聡史  
注進の者 月崎 晴夫

後見 石田 幸雄  
地謡 高野 和憲  
野村太一郎  
福田 成生